慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	チッテリオ准教授の一問一答
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学理工学部
Publication year	2010
Jtitle	新版 窮理図解 No.5 (2010. 10) ,p.6- 6
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000005-0006

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

Q：日本を選んだ理由、日本のメリットとはなんだったのでしょうか？

A：文化が異なる環境でチャレンジングに研究生活を送りたいと思い、選びましたが、来てみると、とても研究しやすい環境でした。まず、日本では研究費を比較的獲得しやすく感じました。また、日本の研究活動では、コネクションが非常に重要な役割を果たすのですが、恩師の鈴木孝治教授はその分野のベテランなので、塾内外にわたりコネクションが多く、そういうネットワークに入ることができたのも大きなメリットでした。

「海外から見た日本、日本から見た海外」

Q：日本ではコネクションが重要というのはどういった点においてでしょうか？

A：日本の研究活動は、研究者同士の結びつきが強く情報も比較的オープンです。アメリカで研究をしたことはありませんが、日本よりは自分の世界を守りたい人が多いイメージがあります。

Q：留学について、他のアジア諸国の学生が積極的に留学しているのに対し、日本の学生は海外に留学したがらない印象がありますが。

A：日本の学生も留学へのモチベーションはあります。しかし、不景気の中、就職が１年遅れてしまうことを心配して踏み出せないでいるようです。就職先が決定してから数カ月留学するケースはありますが…。私はできる限り学生を国際会議に連れて行くようにしているのですが、国内外の研究者とコミュニケーションをとることで向学心を刺激され、留学したがる学生が多くいます。

慶應義塾大学では、学生に十分なチャンスを提供していると思います。ダブルディグリー・プログラム※もありますし、私の出身大学でもあるスイス連邦工科大学チューリッヒ校（ETHZ）ともインターンシップの連携協定を結んでいます。決してチャンスがないのではなく、学生が就職を心配していることが一番の原因だと感じています。

（※ ダブルディグリー・プログラム：慶應義塾と協定校双方合意のもとで準備された一連のカリキュラムを修了すると、両校から同時に学位を取得できる仕組み。理工学部・理工学研究科ではフランスのエコールサントラル、スウェーデンのルンド大学とダブルディグリー・プログラムを実施している。）

「国際人のすゝめ」

Q：慶應の学生が国際的な活動を行っていくうえで、どのような点が重要だと思われますか？

A：最も重要なのは、英語のコミュニケーション力です。国際会議に参加したときに、自分の研究について十分コミュニケーションがとれること。そうすれば、修士課程の学生だったとしても、世界で自分ひとりしか行っていない研究について伝えることができ、研究者としての自信がつきます。英語による一般的なコミュニケーション、特に専門分野に関するコミュニケーション力がないとハードルが高いままです。まずハードルを低くすることが重要だと学生に言っています。

Q：先生は母国語（ドイツ語）・英語のほかに日本語も堪能ですが、学生に伝えたい外国語習得のこつはどのようなものでしょう。

A：最初の頃は、日本語で行われていた研究室の輪講※やセミナーを聞きながら覚えました。特に専門用語に関してはよい辞書がない場合があるので、とにかく聞くことが重要です。海外から来た研究者の講義を聞くだけでも、自分の専門分野の単語について知識を増やすことができます。ぜひ機会を活用して欲しいですね。私はそういった経緯で日本語を覚えたので、雑誌に載っているようなふつうの文章は読めませんが、学生の論文なら日本語で読むことができます。

（※ 輪講：学生たちが研究の進捗を報告し合い、指導教員とともにその内容と方向性を議論する場。洋書や原著論文を輪読したり、基礎的な問題を解いたりする場合もある。）